







各教科等チェックシート

学部・学年	氏 名	小学部・小学校版
小学部〇年		

教科等	内 容	知的障害がある			知的障害がない						備考	
		小学部（段階）			小学校（学年）						具体的な指導内容	指導場面 教科・単元等
		1	2	3	1	2	3	4	5	6		
生活 （特別支援学校） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">生活科</div> 	ア 基本的な生活習慣				/							
	イ 安全											
	ウ 日課・予定											
	エ 遊び											
	オ 人との関わり											
	カ 役割											
	キ 手伝い・仕事											
	ク 金銭の扱い											
	ケ きまり											
	コ 社会の仕組みと公共施設											
	サ 生命・自然											
シ ものの仕組みと働き												
国語 ※（特）2段階 同観点 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">国語</div> 	知識及び技能				●	●						
A 聞くこと・話すこと				●	●							
B 書くこと				●	●							
C 読むこと				●	●							
社会（小学校3～6年） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">算数</div> 	A 数と計算				●	●						
B 図形				●	●							
C 測定				●	●							
D データの活用 （数学的活動）				●	●							
理科 （小学校3～6年）	A 物質・エネルギー											
B 生命・地球												
生活 （小学校1・2年）												
音楽 	A 表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">音楽</div>				●	●						
B 鑑賞				●	●							
図画工作 	A 表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図工</div>				●	●						
B 鑑賞				●	●							
家庭 （小学校5・6年）	A 家族・家庭生活											
B 衣食住の生活												
C 消費生活・環境												
体育 	A 体づくり運動遊び（小2と3段階 体づくり運動）				●	●						
B 器械・器具を使つての遊び（2・ 3段階 器械・器具を使つての運動）				●	●							
C 走・跳の運動遊び（2・3段階 走・跳の運動）				●	●							
D 水遊び（2・3段階 水の中の 運動）				●	●							
E ボール遊び（2・3段階 を				●	●							
外国語 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">外国</div> 	外国語活動 ※(1)											
特別の教科道徳※(2)												
総合的な学習の時間												
特別活動												

この児童は小学部〇年生で、どの教科領域についても、ほぼ学年相応の内容で取り組んでいます。チェックは小学校〇年生のところだけでも構いませんが、上記のように、これまで学んだ内容をすべてチェックするのもよい方法です。

この児童のように、小学校の学習指導要領に準じた教育課程で、学年相応の内容で取り組んでいる場合は、「具体的な指導内容」「指導場面」の記載は特に必要ありません。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。
 ※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる（原則同一、他配慮事項あり。）

自立活動フローシート

自立活動フローシートが、授業づくりに活かされた例です。

学部・学年 小学部〇年 氏名 ○〇 ○〇

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思い通りにならないと、怒ったり泣き出したりすることがある。 一つの活動に集中し続けることが苦手である。 姿勢が崩れやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や教師など、周りの人達と関わるのが好きである。 思い通りにならないときに、叩いたり、押ししたりしてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 両耳とも補聴器を装着している。 聴覚をよく活用しており、後ろからの呼びかけにも反応することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 主なコミュニケーション方法は、キョードスピーチであり、発音も明瞭である。 体験したことや思ったことを相手に言葉で伝えることができる。 発音発語についてはさ行音が不明瞭である。 補聴器のスイッチを切り替えて使用し、聴覚を活用して友だちや教師と会話をすることができる。

記載者より

実態把握の段階で、自立活動の内容6区分に欄分けされているため、幼児児童生徒の実態を捉える視点がわかる。

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

3年後にめざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分がやるべき活動に集中して最後まで取り組むことができる。 自分の考えや気持ちが相手に伝わるように話することができる。
----------	--

記載者より

「3年後」ではなく、「小学部卒業時」の方がイメージがしやすい。

開発者より

「小学部卒業時」などに書き換えてかまいません。幼児児童生徒の将来像を考えることを大切にしてください。

長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> 決められた(短時間の)活動に集中して取り組むことができる。 助詞を正しく使って、自分の体験したことや思ったことを話すことができる。
----------	--

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
①生活のリズムや生活習慣の形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本技能	①コミュニケーションの基礎的能力	
②病気の状態の理解と生活管理	②状況の理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	②言語の受容と表出	
③身体各部の状態の理解と養護	③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助及び代行手段の活用	③日常生活に必要な基本動作	③言語の形成と活用	
④障害の特性の理解と生活環境の調整		④集団への参加の基礎	④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	④身体の移動能力	④コミュニケーション手段の選択と活用	
⑤健康状態の維持・改善			⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション	

コピーして利用を

選定された項目を関連付け具体的指導内容を設定

具体的な指導内容	<p>季節や学校行事に合わせた話題を取り上げて、やりとりをする(個別、クラス、学年)。その中で新しい語彙を増やしたり、口声模倣を促して助詞を正しく使って話したりする。</p>	<p>児童が話したいことを受け止めるとともに、正しい日本語の形を提示し、口声模倣を促す。</p>	<p>1時間の授業をいくつかの活動に分け、それぞれの短時間の活動に見通しをもって集中して取り組めるようにする。姿勢が崩れていたら、こまめに声かけをする。良い姿勢で話が聞けていたら褒める。発音発語についてはさ行音を指導する。生活のあらゆる場面、教科学習など全ての中で、口声模倣、聞き分け、音節数、リズムやイントネーションなどを意識し、聴覚活用を図り、音韻表象を確立できるようにする。</p>
----------	---	--	--

記載者より

「具体的な指導内容」に書かれた内容については、自立活動の時間における指導で扱うだけでなく、各教科など学校生活全体で扱うようにしています。

指導場面(各教科・単元名)	教科名	単元名等	教科名	単元名等	教科名	単元名等
	国語	絵日記の発表	自立	季節の話、行じの話	生活	のりものによって出かけよう
	国語	さがが大きくなるまで	自立	おはなしをしよう 自分のきこえにくさについて考えよう	生活	自分のはっけん

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)より抜粋及び参照。

「自立活動フローシート」が授業に活かされたポイント

・実態把握により、一つの活動に集中し続けることが難しいことがわかったため、1時間の授業の中で、文章を読む、発言する、ペープサートで確かめるなど、活動を適切な時間で区切り、メリハリをつけた活動を行うよう配慮しました。その結果、集中して取り組めるようになってきました。

1 題材名 「さけが大きくなるまで」(教育出版 小学国語 2下)

2 題材について

本学習グループは、小学部〇年生の男女〇名で、学年〇〇の学習をしている。語彙数や文章を正確に読み取る力には差があり、今年度5月に実施した **Reading Test** では、〇名が〇年〇～〇学期、〇名が〇年〇～〇学期という結果であった。これまでの学習においては、動作化や児童の生活経験を想起させることを通して、文章の内容理解を深めていった。語彙力には〇名とも課題がある。学習をすすめる際には、言葉の意味を知るために、辞書を用いて調べたり、視覚資料を用いたりしてきた。また、語彙を活用する力を身につけるために文作りの活動も行ってきた。これらの活動を通して、語彙の確実な定着を促しているところである。今年度学習した説明文「すみれとあり」では、すみれが種を飛ばす様子やありが種を運ぶ様子について、できごとを時系列に整理しながら読む学習に取り組んだ。文章を読んで教師の簡単な質問には答えられるものの、細かく内容を確認すると、語彙の理解の曖昧さから文章の内容を誤解していたり、一文一文は読めていても文章全体として何について書かれているのかが分からなかったりする様子が見られた。

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年のC読むこと(1)イ「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」、エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」に対応している。さけの遡上から始まり、産卵と孵化、川を下り海で回遊し、再び母川に戻ってくるという、循環する過程を述べているところに特徴がある文章である。「さけ」は、児童にとって身近な食材であり、本文には成長過程の写真が多く用いられているため、児童は興味をもって学習に取り組むことができると考える。さけの成長の様子を読むとともに、循環する過程のどこからでもその説明ができるようになることを通し、時間的順序で内容を整理することの定着を目的としている。問いを立てて答える形で説明がなされているが、すぐに簡単な答えが示されるのではなく、さけの成長過程が詳しく解説されており、時間的順序に従って内容を整理して読む必要がある。読み進めるにあたり、時間的順序の把握が重要であり、季節や時間を表す言葉、さけの名称の変化(赤ちゃん、小魚、さけの子ども)、さけの大きさを表す言葉などに着目し、その移り変わりを捉えることが課題となる。

本時では、さけの産卵の様子の説明がなされている第2段落について詳しく内容を読み取っていく。前時までにはさけの成長過程を大まかに学習しているが、児童の実態から、どのような様子でさけが産卵しているのか、正確に読み取ることができていないと考える。視覚資料、動作化を用いて具体的なイメージを持てるようにしていきたい。また、本文に書かれていることを正確に読み取ることだけではなく、どうしてそのような産卵方法をとっているのかを考えさせることで、さらに内容理解を深めていきたいと考える。

3 題材の目標

- ・さけの成長の過程に興味をもち、文章を読もうとすることができる。[関心・意欲・態度]
- ・さけの成長について、季節や場所、さけの様子など、手がかりになる言葉に気をつけながら読みとることができる。[読む]
- ・さけの成長の過程を説明する際、季節や場所、さけの様子などの言葉を適切に使って話すことができる。[話す・聞く]

4 題材の指導計画（15時間扱い）

- ・さけについて知っていることを話す。全文を読み、初発の感想を発表する。・・・1時間
 - ・段落分けをする。問題提示文を見つけ、学習課題を知る。・・・1時間
 - ・言葉の意味調べをする。・・・1時間
 - ・全文を読み、さけの成長の様子の概要をまとめる。・・・4時間
 - ・段落ごとにさけの成長や産卵の様子を細かく読み取る。・・・5時間
- （本時2／5）
- ・教科書の写真を使い、さけの成長を説明する文章を書く。・・・2時間
 - ・書いた説明文を発表する。・・・1時間

5 本時の指導

（1）目標

【全体目標】

- ・さけがたまごをうむ様子について、順番に気をつけて読み取ることができる。[読む]
- ・さけがたまごを埋める理由について、自分の考えを話したり、友達の意見を聞いたりすることができる。[話す・聞く]

【個別目標および手立て】（黒板に向かって右から）

児童	目 標	手 立 て	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの産卵の様子が分かる描写を自ら抜き出し、答えることができる。 ・さけがたまごを埋める理由について、自らの考えを発表したり、友達の発表を踏まえて考えを発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの産卵の描写について、一文ずつ順番に読み取ることができる。 ・友達の意見を聞いてどう思ったかを伝えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いに対して、さけの産卵の描写を本文から抜き出すことができたか。 ・自分の考えを発表したり、友達の発表に対して意見を伝えたりすることができたか。

	る。		
	教科の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉への関心が高く、新しく覚えた言葉を日常生活でも使おうとしている。 ・既習事項をよく覚えており、次の学習に活かすことができる。 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表をもとにさけの産卵の様子が分かる描写を探することができる。 ・さけがたまごを埋める理由について、自らの考えを発表したり、友達の発表を踏まえて考えを発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を参考にしてもよいことを伝える。 ・本文を一文ずつ分けて読み、答えとなる描写を探しやすいようにする。 ・ペープサートを用いて、文章内容の理解を促す。 ・友達の意見を聞いてどう思ったかを伝えるよう促す。 ・適宜、話し手への注目を促したり、話し手の発言を復唱するように促して内容を確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いに対して、友達の意見を参考にしてさけの産卵の描写が書かれている箇所を探ることができたか。 ・自分の考えを発表したり、友達の発表に対して意見を伝えたりすることができたか。
	教科の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え等について積極的に話そうとする様子が見られる。 ・教師の質問や友達の発表を理解しながら聞くことが難しいことがある。 ・簡単な文章の意味を理解することができるが、自分の思い込みや想像で問いに答えることがある。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表をもとにさけの産卵の様子が分かる描写を探することができる。 ・さけがたまごを埋める理由について、自らの考えを発表したり、友達の発表を踏まえて考えを発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を参考にしてもよいことを伝える。 ・本文を一文ずつ分けて読み、答えとなる描写を探しやすいようにする。 ・ペープサートを用いて、文章内容の理解を促す。 ・友達の意見を聞いてどう思ったかを伝えるよう促す。 ・適宜、話し手への注目を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の問いに対して、友達の意見を参考にしてさけの産卵の描写が書かれている箇所を探することができたか。 ・自分の考えを発表したり、友達の発表に対して意見を伝えたりすることができたか。
	教科の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことがあると、自ら質問することができる。 ・簡単な文章の意味を理解することができるが、自分の思い込みや想像で問いに答えることがある。 	

(2) 仮説との関連

本校小学部○学年における主体的な児童とは、「発問に対する答えを自ら探そうとしたり、考えて答えようとしたりする児童」であり、対話的な児童とは、「友達の意見を最後まで聞き、認めたり考えを言ったりすることのできる児童」であると考えている。

本学習グループは、小学部で考案した「主体的、対話的な児童像の段階表」において、「友達の発表を最後まで聞く」「教師の質問に答える」段階であり、今後は、「友達の意見を聞いて質問する」「友達の質問に答える」段階を目指したい。

昨年度より、本学年では全体で発表する際、「挙手をして、指名されてから発表する」等の約束を決め、繰り返し確認してきている。また、教師対児童のみの対話にならないように発表を聞く側の反応例（「つけたしがあります」「もう一度言って下さい」等）も掲示し、授業

場面で活用している。本題材においても、児童が発表する際にはこれらのルールに沿って発表をしたり聞いたりできるように促していきたい。

加えて、本時の学習では、さけの産卵の様子を読み取る際に、ペープサートや動作化を用いて表現し文章に書かれている内容を正確に読み取る手立てとしたい。実際にものや体を動かしながら確認することで、言葉で説明することを苦手とする児童にとっても自分の考えを発表できると考える。そうすることで、教師対児童にとどまるのではなく、児童同士のやりとりを引き出すことができ、目指すべき児童像に近づけるだろうと考える。

(3) 展開

時配	学習内容と活動	手立て及び留意点	備考
	<p>○始めの挨拶をする。</p> <p>○題名の確認をする。</p> <p>○学習範囲（第2段落）の音読をする。</p> <p>○時、場所、さけの様子が書かれている箇所を本文から探して答える。</p> <p>〈33ページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節はいつですか。 ・秋 ・秋になるころ ・さけは何をしますか。 ・海から川へやってくる。 ・川上へ川上へとすすむ。 ・さけはどこにいますか。 ・海から川 ・海と川 <p>〈34ページ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節はいつですか。 ・秋 ・さけは何をしますか。 ・たまごをたくさんうんで、うめる。 ・さけはどこにいますか。 ・川上 ・水のきれいな川上 <p>○本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み飛ばしや読み間違いがあった時には、正しい読み方を伝え、読み直すように促す。 ・33 ページ 1～4 行目、34 ページ 1～7 行目の二つに分けて考える。 ・本文から探せない時は、前時までの学習をまとめた掲示物やノートを見るように促す。 	<p>拡大本文</p> <p>掲示物</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">さけがどのようにたまごをうむのかを読みとろう。</div>		

<p>○川を上るさけの様子を読み取る。</p> <p>(1) さけが海から川へやってくることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さけはどこからどこへ行きますか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・海から川へ行く。 ・川下から川上へ行く。 </div> <p>(2) さけが川の流りに逆らって上っていくことを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の水はどこからどこへ流れていますか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・川上から川下 ・山の方から海の方 <p>※ペープサートを用いて、掲示物上で確認する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・大人のさけが普段住んでいるのは海であることを第1段落の記述から探すよう促す。 ・答えの根拠が本文のどこにあるのかを考えられるように、一人一人該当箇所を本文から探すように促す。 ・川の水は川上から川下へ向かって流れ、海に流れ込むことを確認した上で、ペープサートを用いてさけの動きを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・掲示物
<p>○川上に着いたさけがたまごをうむ様子を読み取る。</p> <p>(1) さけがどのようにたまごを生むのか(尾びれで川底を掘る→たまごをうむ→たまごをうめる)を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上についたさけは、まず、何をしますか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・川ぞこをほる。・おびれをふるわせる。 ・おびれで川ぞこをほる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・つぎに、さけは何をしますか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・たまごをうむ。・たまごをたくさんうむ。・たまごをうんで、うめる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に書かれている内容を順番に読み、誰が何をどうするのかを1つ1つ確認する。 ・「おびれをふるわせて…ほります。」の部分は動作化し、文章の意味を確認する。 ・さけがほるくぼみの深さの30cmがどのくらいなのかをものさしを使って確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの模型 ・ものさし
<p>(2) さけがたまごをうんだあとに埋めてしまう理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてたまごをうめるといいますか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・たまごをとられたくないから。 ・食べられないようにしたいから。 ・たまごをかくしたいから。 </div> <p>○本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いてどう思ったのかを、反応例が書かれた掲示物を参考に伝えるよう促す。 ・適宜、ヒントとなる補助発問(埋めないでたまごはどうなるか、他の魚がたまごを見たらどうするか等)をする。 ・学習した内容を穴埋めにした文を 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めプリ

	<p>(1) ノートにまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・さけは(海)から(川)へ来て、(川上)へすすんでいく。 ・(川上)へついたさけは、(おびれ)で(川ぞこ)を()センチメートルほどほって(たまご)をうんで、(うめる)。 </div> <p>(2) さけの産卵の様子を動画で見る。</p>	<p>準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で書けない児童がいた場合は、個別にまわり本時の学習内容を口頭で確認したり、教科書の記述を一文ずつ一緒に読んで内容を確認したりする。 ・さけが何をしている所か、それは本文のどこに書いてあるのかを確認しながら動画を見ることで、本時の内容を振り返られるようにする。 	<p>ント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ ・パソコン
--	--	--	---

(4) 評価

【全体評価】

- ・さけがたまごをうむ様子について、順番に気をつけて読むことができたか。[読む]
- ・さけがたまごを埋める理由について、自分の考えを話したり、友達の意見を聞いたりすることができたか。[話す・聞く]

6 児童について（黒板に向かって右から）

(1) 聴力レベル

児童		平均聴力レベル (dBHL)	装用閾値 (dBHTL)				
			250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz
A 右 HA/左 HA	右						
	左						
B 右 HA/左 HA	右						
	左						
C 右 HA/左 HA	右						
	左						

(2) 所見

児童	コミュニケーション等に関する所見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・主なコミュニケーション手段は、キュードスピーチ、口話である。 ・意欲的に活動に参加することができるが、初めてのことや自信がないことになると、消極的になりやすい。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・主なコミュニケーション手段は、口話、キュードスピーチである。 ・キュードスピーチの手の形が曖昧になってしまうことが多く、手の形に気をつけると、話す内容を忘れてしまったり、ぎこちない話し方になってしまったりする。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・主なコミュニケーション手段は、口話、キュードスピーチである。 ・注意がそれやすく、姿勢が崩れやすい。

7 備考

(1) 板書計画

<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さけは、() から () へ来て、() へすすんでいく。 ・() についたさけは、() で () を () センチメートルほどほって () をうみ、() 。 	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; text-align: left;"> <p>本文</p> <p>〈川を上るさけのようす〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海から川へやってくる。 ・いきおいよく川を上る。 ・三メートルくらいのたきをのりこえて、川上へ川上へとすすむ。 <p>〈たまごをうむさけのようす〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おびれをふるわせて川ぞこをほる。 ・くぼみにたまごをうんで、うめる。 <p>なぜ？</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほかの魚に食べられないようにするため。 ○ながされないようにするため。 </div> </div>	<p>だい名 さけが大きくなるまで だい二だんらく</p> <p>めあて</p> <p>さけがどのようにたまごをうむのかを 読みとろう。</p>
--	---	--

(2) 配置図

